鈴木隆太選手　小学校での講演会実施報告

当社アスリート、パラスノーボードの鈴木隆太選手が９月７日、愛知県豊橋市立松山小学校の４年生 46 名を集め、「障害者に対しての接し方」や「なぜ、勉強することが必要なのか」というテーマで講演を行いました。

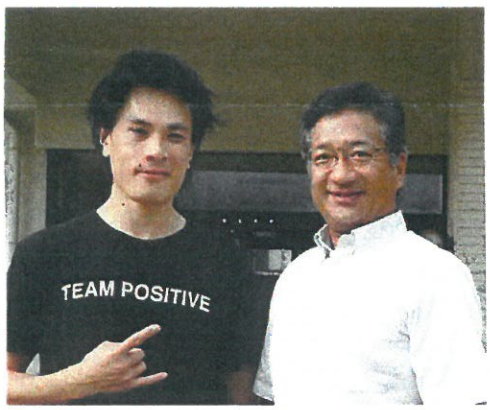
日頃から競技活動に加え、自身の経験をもとに教育活動にも力を注ぐ鈴木選手が、「みんなバク転ができますか」という質問を皮切りに、健常者にも障害者にもできること、できないことがあるのは変わらないという話や、眼鏡を忘れて黒板の文字が見えない子がいたら前の席の人がかわってあげる思いやりなど、わかりやすい言葉で伝えられていくうちに「障害者はかわいそうだ」というイメージを持っていた多くの子供たちの障害者に対する印象が少しずつ変わっていったようです。

事故後にスノーボードを始めた鈴木選手。スキーでなく、スノーボードを選んだ理由を聞かれると「スキーは片足でもできるけど、スノーボードは義足をつけ両足でないとできないから」と答え、これからもより難しいことに挑戦していきたいと考えながらも、挑戦を続けるうちに学生時代、勉強が嫌いで、しっかり勉強をしてこなかったことで、大人になってから挑戦することが難しくなることもあると知り、勉強することの大切さも知ってほしいと語りました。

義足を初めて触る子供たち。

質問タイムには「事故にあった時の気持ち」や「義足はいくらするの？」等途切れることなく質問が飛び交い、実際に外した義足に触れるという貴重な経験するうちに、子供たちと鈴木選手の距離がぐっと縮まり、笑い声や驚きの声にあふれる講演会でした。

予定時間をオーバーし、最後は全員にサインと握手を求められ、鈴木選手の周りにはいつまでも子供たちの笑顔が見られました。



スキーヤーでもある松山小学校水野校長先生とは
スポーツマン同士、意気投合。

鈴木選手は競技活動の傍ら、学校や企業を回り、障害者一人一人が特殊な存在ではないことを多くの人に知ってもらうための活動を続けています。

2018/09/11　マネイジメントチーム　横山